

⑧D—6 幼児の発達基準に関する研究 (2)

お茶の水女子 〇津守 真
磯部 景子

1. 幼児の具体的な行動の発達基準を明らかにし、保育・教育の面より、問題点を明らかにする。

2. 第1報告において算出した。各項目別、年齢別の通過率を基礎資料とする。それに加えて、第1報告と同一質問紙について、幼稚園および保育園の保育担当者に、クラスの状態を記録してもらった。これは、全国各種の施設にわたり、同一保育担当者が、3学期の状態と、1学期の状態とを記録している。全部で約100例あるが、今回はその代表的なものをとりあげて、母親の記入したものを比較した。

3. ある項目は幼稚園、保育所で観察しやすく、家庭では観察しにくい。その逆のものもある。3学期末と1学期とを比べると、変化のみられる項目と見られない項目とを区別することができた。また、幼稚園と保育園、都市と地方、性別によって相異のみられる項目もあり、さらに保育方法別に検討すると、発達項目に特定の方向の相異を認めることができた。このことより、幼児の発達をすすめるための保育方法を評価することができた。